

学んで知る楽しさ

館長 横川公子



ミュージアムで、モノにまつわる物語を発掘する楽しさについて、最近思い当たることがある。

学芸員課程に在籍する学生の中に、この発掘の楽しさに取りつかれ、何かにつけてプロジェクトに参加し、学芸員としての社会参加を模索する学生（実際には、学卒で進むのは難しいのだが）が、毎年出現する。彼女たちにとって、バックヤードのアルバイトは見逃せないチャンスであり、授業の合間を縫って精勤している。そこには学ぶことの原点に對峙する楽しさや充実感が体感されているように思える。

それにつけて想起するのは、小・中学校で学んだ楽しさについてである。筆者は、戦後のモノのない、何かあっけらかんとした時代を愛知県東三河の郡部で過ごした。この時代についての、欠乏感のようなものは全くない。海辺では春・夏の潮干狩り、雨上がりの松林では秋茸だけでなく春の松露を探し、大抵の家庭では野菜作りや鶏を飼育していた。子供たちは、通学の野道で、野イチゴや桑の実、茅花のようなものもついばんだ。そうして色鮮やかな蝶や蛇に遭遇したり、草の香りに包まれ、入道雲を仰いだりしていた。家では、何かしら因習的な身の回りの話や知覚と体験による世界に浸っていたように思う。テレビはなく、ラジオは18時からの子供の時間ぐらいしかなかった。

学校は、自宅周辺の村の生活とは別の、文化的で進歩的、科学的な明るい場であった。何よりも、それまで接してきた知覚的で不定形の世界に、明晰な補助線が引かれ、それらが知識化していく場であった。とりわけ、当たり前、そっくりそのまま知覚していた小川や畑のこと、海や山のこと、風のこと…そして自分の身体のこと等々、身の回りの事象が知識として衣替えしていく、そのような納得の仕方だった、学ぶことは楽しいことだった。

このことは、ミュージアムのバックヤードで、資料の調書を作ることに似ている。1枚のキモノについて、身頃や裾や衿や袖の形と大きさのこと、繊維や織の組織、柄や取材、色合、染色技法など素材のこと、汚れや破れの位置や原因のこと等々。真実を探る探偵のように資料を観察し言語化すると、誰がいつ、どこで、何のために、どのように着られていたのかが浮かび上がってくる。着装した人間が動き出し、1枚のキモノが物語を語りだすのだ。不定形の資料が知識化して、調査による成果となって表れるのだ。

情報化とかデジタル化といわれる以前、学ぶことの楽しさは、一人一人の知覚や体験の知識化とともに息づいていたのではなかろうか。資料を知識化することは、物語を発掘することであり、しらずしらずのあいだに引き寄せられる楽しさがある。

1階ロビー
2026年常設展示コーナー

春季企画

「水のデザイン」を
開催しました



展示風景

絶え間なく流れる水は、けがれを流す吉祥的な意味を有しており、洋の東西を問わず各地で神聖視されてきました。また日本では古来より、水や雲といった身近な自然を文様として取り入れてきました。時代をこえて、様々な美術工芸品や衣装のなかに、時に雄大な表現で、時に優美な背景として、水のデザインを見出すことができます。

書家でもあった武庫川女子大学の校祖・公江喜市郎先生は、「風濤偕和」という言葉を愛し、扁額や扇面などに数多くその言葉を書かれました。先生が昭和42年、勲二等瑞宝章を受賞された記念に刊行された『風濤偕に和して』のなかに、この言葉について語る公江先生の次のような文章が記されています。

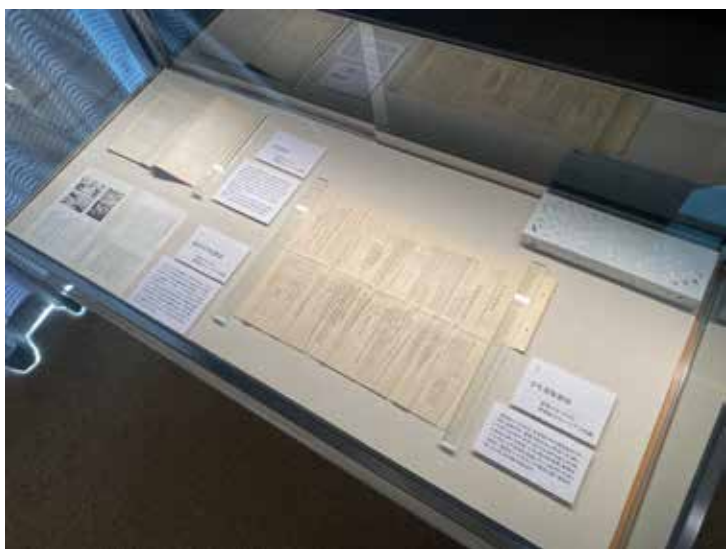
「水澄み、山静かにして、風濤偕に和す。」という私の書が、第一学舎の学院本部正面に掲げられている。私はこの書の通り、水澄み、山静かにして、風濤ともに和するところこそ、わが武庫川学院であり、武庫川学院の精神であり、学風の根基をなすものであるとかたく信じて疑わない。（『風濤偕に和して』p.582 公江喜市郎先生の教育理想 より）

このたびの展示では、水のデザインについて取り上げました。（並木）

春季展 「新制女子大学として抱いた夢と理想」を 開催しました



展示室風景



展示風景（昭和 24 年度 入学案内ほか）

2026 年 4 月 3 日(金)～6 月 3 日(水)に春季展「新制女子大学として抱いた夢と理想」を開催しました。本展覧会では、戦後の大学改革に則った新制大学化の最初期にあたる昭和 24 年に、武庫川高等女学校から武庫川学院女子大学となった本学が、様々な夢と理想を描きながら学部学科を設置・改組してきたのかを、大学要項や入学試験案内、パンフレットなどからご紹介しました。

また、昭和 24 年に設置された「学芸学部生活科学学科食物学専攻（現・食物栄養学科）」「学芸学部生活科学学科被服学専攻（現・生活環境学科）」、昭和 37 年設置の「薬学部」については、各学科史資料委員の先生方に協力を依頼し、各学科が保存している貴重な学科史資料を借用し、展示しました。

昭和 40 年代に本学で学んでいた学生のノートや、当時の学生が使用していた実験器具や教材などからは、本学が掲げた夢や理想に引き寄せられ、そこから多くのことを学び、社会へと羽ばたいた先輩たちの姿が思い浮かびます。本展覧会をとおして、本学の歴史が紡いできた蓄積を見つめ直し、そして 2027 年度からの皆学化に向けて新たな夢や理想に資する想像力を引き出すことを試みました。本展覧会の会期をとおして、400 名を超える来館者の方にお越しいただき、5 月 24 日（日）の鳴松会の日には 30 名もの卒業生の方にお越しいただきました。本学の歴史に関わる全ての学生や教職員の想いと、今後への期待を感じていただける展覧会になっていれば…と思います。

当館では、学院の発展とともに収集されてきた生活資料や民具資料、美術工芸品資料などの保存・調査・研究に加え、各学科が所有する資料についても

情報を収集し、調査をおこない、さらに展示に活用することを試んでいます。史資料の保存には困難も伴いますが、今後も学院の歴史や発展に寄与するような調査・展示を実施していきたいと考えています。皆様のご協力を、お願い申し上げます。



学科史資料展示（食物栄養学科所蔵）



学科史資料展示（生活環境学科所蔵）



学科史資料展示（薬学部所蔵）

さがしてみよう！

武庫川ヒストリー vol.7

くわしくなろう！

6月3日まで開催していた春季展では、昭和24年度の入学案内をはじめ、新制女子大学となった初期の頃の様々な学院資料をご紹介しました。現在とは異なる風景もあり、懐かしく思う方も、意外に思う方もいらっしゃるかと思います。まもなく90年を迎える本学には、その歴史を物語る資料がまだまだたくさんあります。展覧会やミュージアムニュースなど、いろいろな場面でご紹介していきたいと思っています。



「学院資料写真」(当館所蔵)

今回の武庫川ヒストリーでご紹介する写真は、とある建物の上棟式をおこなっている写真です。ずいぶんと古い写真のようですが…一体いつ撮影された、なんの場面の写真でしょうか？ぜひ想像してみてください。

附属総合ミュージアムでは、学院のこれまでのあゆみに関する様々な資料を収集し、保存しています。学部学科や研究室などにある何気ない資料も、学院にとって重要な資料です。ぜひ、情報をお寄せください。

研究活動について

ミュージアムがおこなっている研究について、その一部をご紹介します

●紀要・年報を発行しました

附属総合ミュージアムでは、毎年「紀要・年報」の発行をおこなっています。2025年度には第6号を編集し、研究員・共同研究員による4本の論考・2本の調査報告を紀要に掲載しました。また年報には、2024年度に実施した春季展・秋季展のほか、博物館学芸員課程の報告、ミュージアム資料の受入や特別利用の記録、1年間の活動報告、各種研究会の報告など、様々な活動の記録を掲載しています。今年度より、紙媒体での発行はおこなわず、リポジトリのみでの公開となっています。ぜひ右記QRコードよりリポジトリをご覧ください。



紀要・年報第6号
リポジトリ

また、第7号の紀要への投稿受付もおこないません。詳細はinfo@Musesなどにておこないますので、ぜひご検討ください。

●第1回研究交流会を開催しました

6月20日(土)に第1回研究交流会を開催しました。今回は3名の研究発表があり、その後、参加者から活発な意見交換がおこなわれました。また発表後の茶話会では、より砕けた雰囲気の中かで様々なディスカッションがおこなわれ、新たな共同研究のタネが生まれていました。

第2回の研究交流会は、秋頃に予定しています。皆様のご参加をお待ちしております。

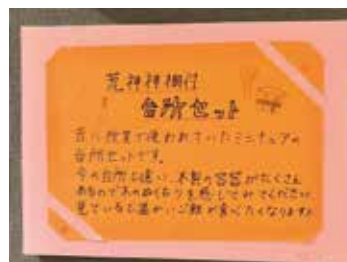
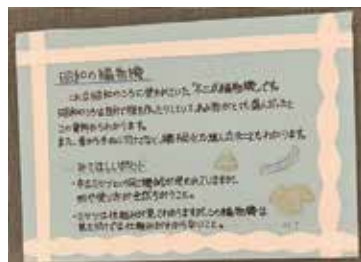
「トライやる・ウィーク」の受け入れをおこないました

5月25日（月）～29日（金）の5日間、当館としてはじめての「トライやる・ウィーク」の受け入れをおこないました。今回は、浜甲子園中学校2年生3名が参加し、学芸員の仕事を体験しました。

5日間の活動では、ミュージアムの施設や沿革について学んだほか、登録有形民俗文化財の現物調査作業の見学と説明、ミュージアム資料の調書作成と資料撮影・梱包作業、収蔵施設の見学などをおこないました。主な作業内容となったミュージアム資料の調書作成・資料撮影・梱包作業では、資料の法量を測ったり、資料の特徴や様々な情報を記録したり、さらにはカメラで撮影し、丁寧に梱包するという「学芸員」の仕事を体験しました。最初は、慣れない撮影や調査に戸惑う姿もみられましたが、次第に慣れてくるとミュージアムスタッフが声をかけなくても3人で協力して作業を進めることができていました。

最終日には、開催中の展覧会「新制女子大学として抱いた夢と理想」の展示資料の中からそれぞれが資料を選び、「家族や友人に紹介したいポイント」としてキャプション作成をおこないました。それぞれが展示資料をしっかりと見て、当初こちらが想定していた以上に素敵な紹介キャプションを作成してくれました。

5日間をとおして、仕事に取り組むということ、そして「大学ミュージアム」という場所や「学芸員」という仕事について学んでくれました。



(写真上・中)
トライやる・ウィーク活動の様子

(写真下)
中学生が作成した展示資料紹介
キャプション

